目指す姿と方向性

北海道の優位性を活かし、近年の社会情勢をうまく取り込みながら、人口減少下においても、人々が安心して暮らし続けられるだけでなく、地域資源が活かされ、魅力的で暮らしやすく、外からも人を呼び込み、地域が活性化するまちを目指します。

北海道の現状と課題

- 人口減少と過疎化の進展
- 厳しい経済情勢
- 広域分散型都市構造
- 自然災害リスクの高まり
- 地球環境問題の深刻化
- 交通・物流

北海道の優位性

- 地理的特性・広大な面積
- 優れた自然環境
- 高い食料自給率
- 豊富なエネルギー資源
- 寒冷地で培われた技術

社会情勢の変化

- 脱炭素化
- ＳＤＧｓの推進
- 未来技術の活用
- 新型コロナの影響
- 防災・減災・国土強靱化

取組の方向性

北海道の優位性を活かし、近年の社会情勢の変化や技術革新を取り込み、地域特性に応じた取組を一体的に推進。

コンパクトな まちづくり × 脱炭素化・資源循環 × 暮らしやすさの向上

災害に強いまちづくり

目指す姿

誰もが心豊かに住み続けることができ、安全・安心で暮らしやすく、資源・エネルギー循環が進んだ効率的なまち

取組の視点と効果

「北の住まいるタウン」の実現に向け、北海道の優位性や社会情勢の変化、自然災害の激甚化・頻発化を踏まえ、「コンパクトなまちづくり」「脱炭素化・資源循環」「暮らしやすさの向上」という３つの方向性に沿った取り組みを掛け合わせ、「災害に強いまちづくり」を意識しながら、地域の多様な主体が連携・協力して進めていくことにより、地域が抱える多岐にわたる課題の解決につながる相乗効果・波及効果を生み出し、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていきます。

公共施設の機能集約と新機能を付加したまちなか拠点を官民連携の事業手法で整備（室蘭市）

廃棄物由来のバイオガス活用（稚内市）

コンパクトなまちづくり

- ○市街地の無秩序な拡大抑制
- ○公共公益施設の集約
- ○まちなか居住の推進と地区ごとの居住エリアの集約
- ○コミュニティ拠点の形成
- ○空き地･空き家等のマネジメント
- ○災害リスクを踏まえたコンパクト化
- ○まちの魅力づくり　など

脱炭素化・資源循環

- ○再生可能エネルギーの活用促進と地産地消
- ○地域でのエネルギー共有
- ○脱炭素化・資源循環による産業の創出
- ○建築物や住宅の省エネ化　など

取組のかけ算により一体的に推進

- ○安心して暮らせるまちづくり
- ○地域を支えるコミュニティづくり
- ○交通や物流の確保
- ○地域のポテンシャルを活かした移住･交流の促進
- ○健やかに暮らせるまちづくり　など

暮らしやすさの向上

災害に強いまちづくり

楽しみながら防災を学ぶ「サバイバルフェスティバル」の開催（鹿追町）

路線バス内での移動販売を行う「マルシェバス」の実証実験（帯広市）

相乗効果・波及効果

- ・都市経営の効率化
- ・地域の魅力の創出
- ・移住定住の促進
- ・温室効果ガスの削減
- ・暮らしの安全･安心の向上
- ・生活便利性の維持向上
- ・コミュニティの再生
- ・地域経済の再生･活性化･好循環
- ・地域資源の循環や利活用の拡大
- ・物流の効率化
- ・まちなかのにぎわい創出
- ・雇用創出
- ・防災力の向上
- ・自然環境の保全
- ・関係人口の創出・拡大

《将来像》　多岐にわたる地域課題の解決
将来にわたって持続可能なまちづくり